

脳神経内科

主任部長 細見 直永

当科の診療体制

2024 年は、元日の能登半島地震に始まり、8 月に南海トラフ地震臨時情報が発表されるという震災をより身近に感じざるえない年であり、またグロブリン製剤をはじめ多くの薬剤の欠品に悩まされた。

常勤のスタッフとして、細見直永、山崎正博、葛目大輔、森本優子各医師が入院・外来診療にあたっております。ここ数年、診断・治療面で大きく変わってきた重症筋無力症や多発性硬化症など、神経免疫異常が発症に関与する神経難病については、神経内科専門医資格を持つリウマチ・膠原病内科の吉田剛医師に神経免疫部門を担ってもらい、共同した診療体制を構築しております。

これら少ないスタッフの中で、“高知県の神経疾患の最後の砦”となるべく努力を継続しています。また神経内科専門医が少なく、偏在している高知県の特殊性から、慢性期の患者は開業医の先生方に継続加療をお願いし、年に数回は当院で診察する診療体制をとっています。

近年、遺伝子解析や各種抗体検査の進歩には目を見張るものがあり、他施設との連携がますます重要となっており、当科も大学や各種研究機関・センターと人的ネットワークを拡げて活用しています。

診療実績

① 入院患者

2024 年には入院患者数は 364 名（←427 名）でした。大きなカテゴリーで分類すると脳血管障害 110 名（←130 名）、てんかん・ケイレン・など機能性神経疾患 68 名（←97 名）、神経変性疾患 30 名（←53 名）、神経感染症 12 名（←13 名）、神経免疫疾患 22 名（←44 名）などでした。さらに、他科入院中に発見された脳梗塞に対する治療方針などに関して相談を受け共診しました（10 名（←33 名））。

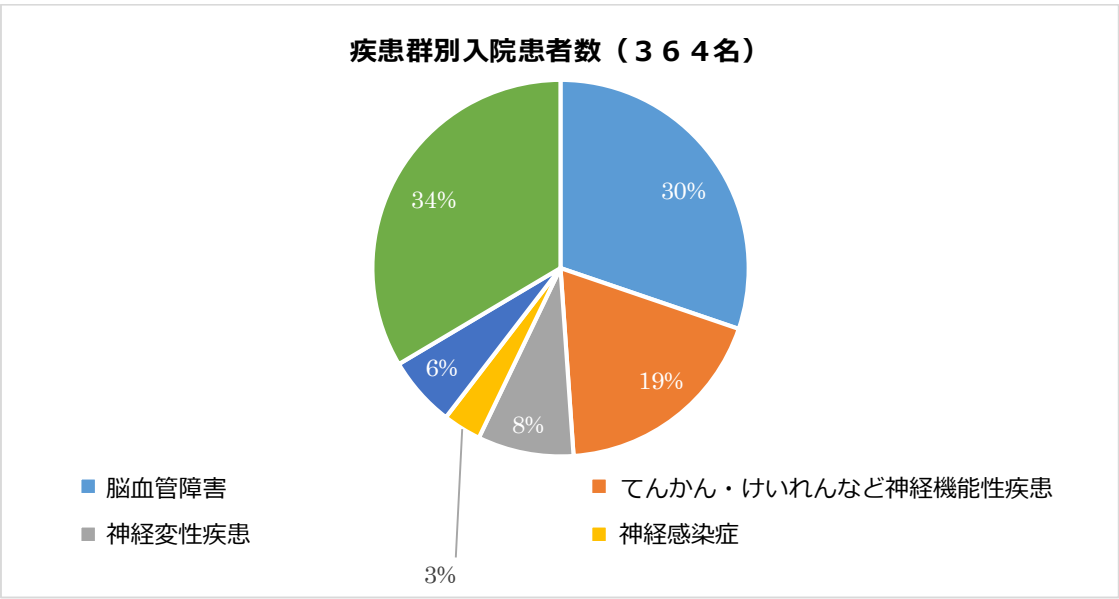


図 1. 疾患群別入院患者数

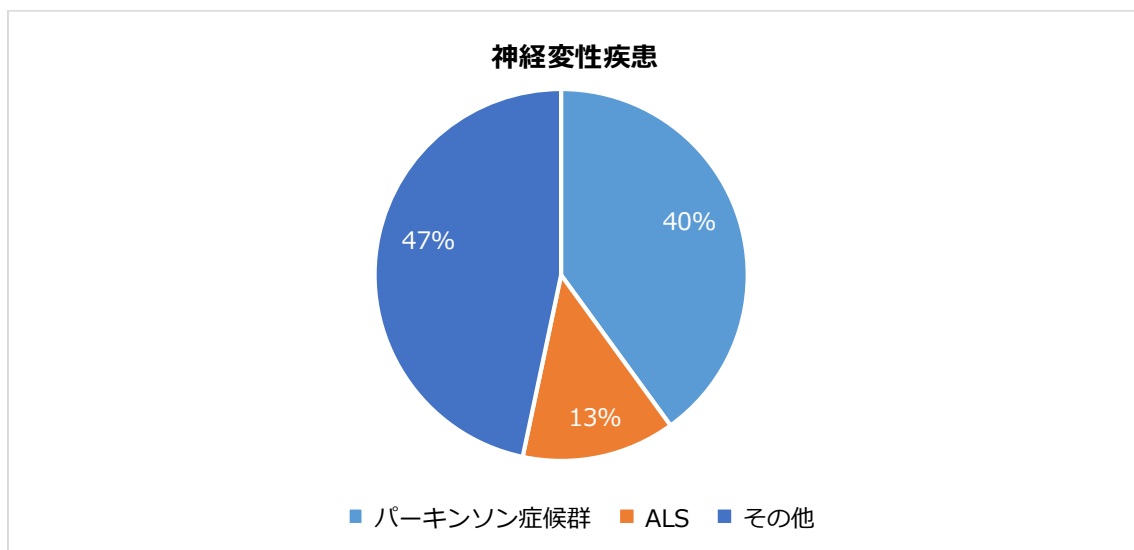


図 2. 神経変性疾患

② 紹介患者

当科に紹介いただいた入院患者は、100 名でした。国立病院機構高知病院、仁淀病院、岡村病院、須崎くろしお病院、JA 高知病院、高知整形・脳外科病院、図南病院、森木病院、高知記念病院、国吉病院、くぼかわ病院、白菊園病院、近森リハビリテーション病院、高松内科クリニック、高知西病院、高知赤十字病院、佐野内科リハビリテーションクリニック、細木病院、田村内科整形外科病院、野市中央病院などから多くのご紹介をいただいております(2024 年実績:紹介患者の多い順、2例以上)。

これからの脳神経疾患診療について

神経疾患の特徴は、その後遺症状により ADL が低下することです。特に脳梗塞は t-PA 治療や血栓回収などにより劇的な改善を示す患者も多くなりました。そのためには早期受診を勧める啓発運動が重要になります。また、てんかん患者では新規抗てんかん薬が増えて発作抑制に有用になっています。難病の神経変性疾患では診断や治療法が進歩しています。どの疾患も後遺症を減らすには早期診断・早期加療が重要であり、また脳卒中は予防医療が急性期治療に勝ると言われており、これをさらに向上させるためにも他医療機関との連携強化を図ります。

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
当院で経験したアシクロビル脳症の特徴	葛目大輔, 森本優子, 山崎正博, 細見直永	日本老年医学会四国地方会	松山, 2024年2月
D ダイマー値を用いた肺血栓塞栓症高リスク患者の抽出	細見直永	日本リハビリテーション医学会学術集会	東京, 2024年6月
当院で経験したアシクロビル脳症の特徴	葛目大輔, 森本優子, 山崎正博, 細見直永	日本老年医学会学術集会	名古屋, 2024年6月
正常な髄液細胞数を呈した <i>Streptococcus dysgalactiae</i> subspecies <i>equisimilis</i> 髄膜炎の一例	葛目大輔, 森本優子, 堤聡, 山崎正博, 細見直永	日本神経学会中国・四国地方会	出雲, 2024年6月
自慰行為によって血管の再攣縮を来した RCVS の一例	葛目大輔, 森本優子, 山崎正博, 細見直永	高知県医師会医学会	高知, 2024年8月
正常な髄液細胞数を呈した SDSE 髄膜炎の一例	葛目大輔, 堤聡, 森本優子, 山崎正博, 細見直永	日本神経感染症学会総会	東京, 2024年10月
Speech-language findings in the course of case with herpes simplex encephalitis	荻安誠, 河野寛一, 細見直永	日本音声言語医学会総会・学術講演会	東京, 2024年10月

著作活動

著書(邦文)

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
Dysarthria 診療の手引き 2023 年版.	日本音声言語医学会 言語・発達委員会 西澤典子、荻安誠、中森正博、細見直永、椎名英貴、福永真哉、中谷謙、益田慎、三枝英人、草野修輔、田中康博、南都智紀	日本音声言語医学会.	2024 年

総説(邦文)

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
脳神経疾患合併腎障害の診療.	内藤裕之, 細見直永.	日本内科学会誌.	113: 773-779, 2024
脳卒中発症予防のためのリスク管理 脂質異常症.	細見直永.	臨牀と研究.	101: 1326-1331, 2024

邦文原著

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
尿路感染症により Citrobacter koseri 髄膜炎を呈した高齢女性の一例	葛目大輔, 森本優子, 山崎正博, 細見直永	脳神経内科	101: 765-768, 2024
水痘-帯状疱疹ウイルス性脳炎後に微少出血をきたした高齢女性の一例	葛目大輔, 森本優子, 吉田剛, 山崎正博, 細見直永	脳神経内科	101: 511-512, 2024
アルコール依存を合併したウェルニッケ脳症では頭部 MRI 病変の出現頻度が低下する?	葛目大輔, 森本優子, 堤聡, 山崎正博, 細見直永	臨床神経	64: 906, 2024

皮疹を伴わない水痘-帯状疱疹ウィルス血管症によって両側延髄内側梗塞を呈した若年女性の1例	葛目大輔, 大津留祥, 吉田剛, 森本優子, 山崎正博, 細見直永	臨床神経	64: 583-588, 2024
ウェルニッケ脳症における頭部 MRI 異常を来す要因の解析	葛目大輔, 森本優子, 堤聡, 山崎正博, 細見直永	臨床神経	64: 361-363, 2024
Hot cross bun 徴候を認めた橋及び両側中小脳脚梗塞の1例	葛目大輔, 森本優子, 堤聡, 山崎正博, 細見直永	臨床神経	64: 190-193, 2024
嗄声と嚥下障害を呈した zoster sine herpete の1例	葛目大輔, 森本優子, 山崎正博, 細見直永	日本老年医学会雑誌	61: 489-491, 2024
非急性腎障害合併アシクロビル脳症の特徴	葛目大輔, 森本優子, 堤聡, 山崎正博, 細見直永	日本老年医学会雑誌	61: 61-67, 2024
非痙攣性てんかん重積発作に対しラコサミド投与し洞性徐脈を生じた高齢者の1例	三浦格, 葛目大輔, 堤聡, 森本優子, 山崎正博, 細見直永	高知県医師会医学雑誌	29: 190-193, 2024
レベチラセタムによって幻聴を来したてんかんの1例	葛目大輔, 堤聡, 森本優子, 山崎正博, 細見直永	高知県医師会医学雑誌	29: 185-189, 2024
横断性脊髄炎で発症しランダム皮膚生検で診断に至った免疫不全関連血管内大細胞型 B 細胞リンパ腫	川村英理子, 砥谷和人, 葛目大輔, 上村由樹	臨床血液	65: 1381-1387, 2024

英文原著

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
Long-term changes in carotid intima-media thickness according to baseline blood pressure level: J-STARS Echo study.	Wada S, Koga M, Kagimura T, Toyoda K, Nagai Y, Aoki S, Nezu T, <u>Hosomi N</u> , Origasa H, Ohtsuki T, Maruyama H, Yasaka M, Kitagawa K, Uchiyama S, Minematsu K, Matsumoto M; Japan Statin Treatment Against Recurrent Stroke (J-STARS) Echo Study Collaborators.	J Neurol Sci.	2025 in press.
$\alpha 7$ nicotinic acetylcholine receptor agonist attenuates allergen-induced immediate nasal response in murine model of allergic rhinitis.	Yamashita S, Miura K, Matsuura A, Yamasaki N, Uda N, Ogata S, <u>Hosomi N</u> , Nakajima S, Kitamura N, Gotoh M, Mori A, Kaminuma O.	J Vet Med Sci.	86: 824-827, 2024
Prospective observational study for the comparison of screening methods including tongue pressure and repetitive saliva swallowing with detailed videofluoroscopic swallowing study findings in acute stroke patients.	Nakamori M, Imamura E, Maetani Y, Yoshida M, Yoshikawa M, Nagasaki T, Masuda S, Kayashita J, Mizoue T, Wakabayashi S, Maruyama H, <u>Hosomi N</u> .	JAHA.	13: e032852, 2024
Liver fibrosis index is associated with functional outcome among acute ischemic stroke patients.	Eto F, Nezu T, Aoki S, <u>Kuzume D</u> , <u>Hosomi N</u> , Maruyama H.	JSCVD.	33: 107537, 2024